

神奈川大学  
教職課程指導室



～内容～

- ・戸塚中学校での学び 合羽井淳仁
- ・ボランティア活動を通して 寺澤智恵美
- ・学校の先生はすごい! 高山裕彦
- ・ボランティアを体験して 加藤良幸
- ・教えること 宮島未来
- ・学校ボランティア体験記 内山智咲子
- ・学習ボランティアを通して 石原結

# 学校ボランティア通信 No.12

～戸塚中・六角橋中編～ 発行日：2009年7月15日

戸塚中学校での学び

法学部法律学科4年 合羽井淳仁

私は、2年生の2月から横浜市立戸塚中学校でボランティアをしています。現在は月曜日と土曜日に行っています。月曜日の主な活動は個別支援学級の生徒への学習サポートをしています。土曜日は補習希望の生徒と一緒に勉強をしたり、外国からの転校生のために教科書にルビを振ったりしています。

平日のボランティアを始めた頃は、個別支援学級の生徒に対して私は何をしたら良いのか、また生徒とどのように接したら良いのかなど戸惑いの連続でしたが、個別支援学級を担当されている先生方からたくさんのアドバイスを頂き、生徒たちと積極的にコミュニケーションを取ることでその戸惑いはだんだんと減っていきました。

また、今年度は2年生の宿泊体験学習である自然教室の引率もさせていただきました。私は個別支援学級の2年生と行動しました。この自然教室も日頃からコミュニケーションを取っていたことで無事終わられました。2泊3日という短い時間でしたが、生徒たちの「成長」をうかがうことが出来たと思っています。

一方、土曜日の方は地域の方々も先生として参加していただき、補習希望の生徒に対しての教え方など私たち学生も大変勉強させてもらっています。

私はこのボランティアを通して、「学校」を多角的・多面的に捉えなければならぬと感じました。この捉え方は中学校に限ったことではないですが、「学校」にはさまざまな生徒がいます。その生徒一人ひとりをしっかり把握し、生徒理解に繋げていきたいと思っています。

## ボランティア活動を通して

人間科学部人間科学科4年 寺澤智恵美



戸塚中学校でボランティアをはじめ二年が経ちました。今年度は主に平日は個別支援学級に入り、土曜学校にも参加しています。毎回の活動では学びとることが本当にたくさんあり、とても貴重な経験をさせていただいていると感じています。

個別支援学級では生徒も増え、まだ生徒とどのように関わったらよいのか戸惑うこともあります。先生方にサポートしていただいたり、生徒たちに支えられて毎日がとても充実しています。生徒一人一人に必要な支援があり、どのように支援を行ってあげばよいのか、毎日が勉強です。学習面だけではなく、挨拶や着替え、場面に応じた適切な言葉や行動やちょっとしたひとことなどの生活面でも先生方は気づき、指導・支援されています。先生方と生徒たちの一つ一つのやりとりからも、気づき学びとることがとてもたくさんありました。

土曜学校では今年度から担当する生徒も新しくなりました。はじめは「親に行けと言われて…。」と通うことに前向きではなかったのですが、毎回休まずに登校してくれ毎回課題を持って学習に取り組み、勉強以外にもたくさんのお話をしてくれるようになりました。「土曜学校に来て良かった。」と言われた時はとても嬉しく感じました。勉強はもちろん大切ですが、生徒たちが登校・学習しやすい雰囲気、居場所をつくってあげたいと思います。

ボランティアでは生徒たちや先生方との関わりはもちろん大切ですが、同じようにボランティアに参加している者同士の交流も大切だと思います。それぞれ違った視点を持っていたり、自分が気づかなかったことに気づかせてくれたり、とても良い刺激になっています。これからも一つ一つの経験を大切にし、ボランティアを通して多くのことを学び続けていきたいと思っています。

## 学校の先生はすごい！

法学部法律学科4年 高山裕彦

私は今年の2月から戸塚中学校でボランティアをさせていただいています。ボランティアをはじめようと思ったのは、自分は中学校の教員を目指しているのに、実際の中学校の様子を知らないのはいけないのではないかと思ったからです。

戸塚中学校では土曜日に「戸塚実りの教室」というものを行っています。この教室では、なかなか授業についていけない生徒が質問しにきたり、わからないところを学習しにきたりします。私はこの教室に参加させていただいて、中学生と勉強しています。この教室で学んだことは人を教える事は難しいということでした。どう言ったらいいか、何が伝わるか。どう工夫したら勉強が楽しくなるか。この教室は少人数制ですがこの間には教師になり普通の授業をするときにも考えなければならぬことだと思っています。毎回必ず私自身も学ぶことがあり、勉強になっています。また、実りの教室は学生だけではなく地域で生徒を教えられる年配の方々も教えるために来ています。そういう方々とも子ども達について話し合うことができ、わからないことは相談させていただいています。

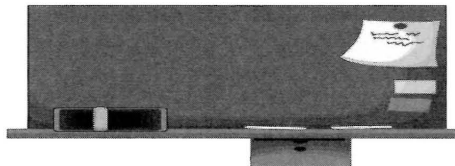
## ボランティアを体験して

人間科学部人間科学科4年 加藤良幸

私は今年の2月から横浜市立戸塚中学校でボランティアをさせていただいています。2月、3月は水曜日と土曜日に、4月からは毎週土曜日にボランティアに行っています。平日の水曜日は校舎の廊下の掃除や、特別支援教室の手伝いや、時々、授業を見学させていただいたので、とても勉強になりました。

土曜日は午前中に二時間、子どもたちと個別と一緒に勉強しました。1対1または1対2のことが多く、勉強があまり得意でない子と数学や英語を学習することで、どのようにしたら子供たちに分かりやすいのか考え、子どもたちとコミュニケーションをとるなかで、生徒本人を理解しようと努めています。

生徒と関わることができる学校ボランティアは教員を目指す私にとって貴重な体験となりました。この体験を生かして、今後、教員になるため、さらに教員になっても頑張りたいと思います。



学校生活はどういうものか体験することができています。最近では、特別支援学級の方で生徒と勉強しています。そこでは私はアシスタントティーチャーのような事をさせていただいて、最近では月曜日にくる先生として生徒に覚えてもらっています。この前生徒に「今日は高山先生がきてくれたから学校楽しかった。」と言われました。それを聞いて私はとても嬉しかったです。しかし、嬉しい事ばかりではなく悩むこともあります。それは特別支援学級で生徒ごとにこれならできるといふものに違いがあるので、どこまで私が教えてあげればいいのかわからないということです。生徒が苦手な勉強を嫌がっているのはわがままか、本当にできない事なのか。今は悩んでいるのですが、いつかわかる日がくると思っています。

私がボランティアで感じるのは学校の先生方はすごい！ということです。教える事は難しく責任も多くかかってきます。しかし、先生方は常に生徒のことを考えており、小さな変化も見逃さないようにしています。私はこのボランティアの中で教師の大変さ、やりがいの一部ですが学ぶことができています。ボランティアをやってみてよかったと感じています。

## 教えること

外国語学部英語英文学科2年 宮島未来

私は、3月から戸塚中学校で土曜日だけのボランティアを始めました。個別指導の経験がなく、ほとんど何も分からず加わりましたが、教師を第一志望として考えている私にとってはとても貴重な経験だと思っています。

ちゃんと生徒を受け持つようになったのはごく最近のことですが、指導の仕方に悩みました。1対2のように個別で見ていると、集団に対して教えるより一人一人のレベルの差が見え、どのように進めるか考えました。一人ばかり教えてはいけなく、かといって二人一斉にはできない。簡単に教えるわけにもいかない。これが一番大変だと思ったことです。

教えるということには責任がつきもので、悩むときも自身を失うときもありますが、それよりも自分が教えていることで、生徒から「分かった！」や「出来た！」という声が聞けるのはとても嬉しいことです。塾で教えているときはまた別の視点から生徒と関わることができましたし、生徒一人一人と関わるという事について勉強させていただきました。

## 学校ボランティア体験記

外国語学部国際文化交流学科2年 内山智咲子

私は、今年の5月から六角橋中学校で学校ボランティアをはじめました。ボランティアを始めたきっかけは、4月に行われた学校ボランティアの説明会に参加したことでした。説明会では、すでにボランティアをしている方々のお話を聞くことができました。皆さん、生き生きと楽しそうにボランティア体験談を語っていて、楽しそう、私もやりたいと思いました。そして、六角橋中学校で保健室登校の生徒の学習サポートを募集していると紹介され、さっそく活動を始めました。

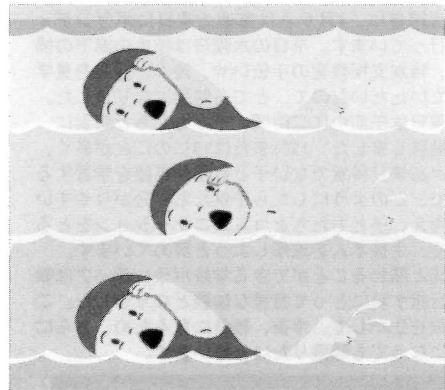
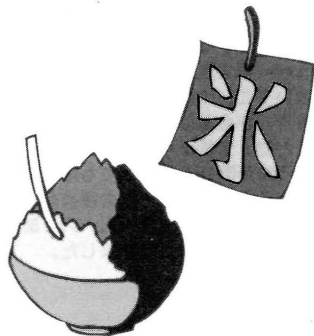
私が学習サポートをしているのは、主に2年生の女の子です。ほかに3年生の生徒が来ることもあると最初に紹介されたのですが、私はまだ会うことがありません。私が、英語の教員免許取得を目指していることを配慮していただき、英語を教えることになりました。自分の中では感覚みたいなもので納得していることでも彼女にとっては難しいことをどのように教えてあげたら、よくわかってもらえるかということを考える良いきっかけとなっています。塾講師のアルバイトをしたことがあるわけでもなく、「教える」ということがまったく初めてのことで毎回発見の連続です。

今までボランティアをしてきて、悩んでいることが大きく分けて2つあります。1つ目は授業時間の使い方です。集団指導ならまだ自分の受けてきた授業を活かせばいいのですが、1対1の個別指導というのはどのように指導すればいいのか、なかなか難しいものがあります。授業のはじめは彼女が自主学習で予習をしているのでそのページの発音、意味、文法事項の確認をします。

それは20~30分で終わってしまい、残りの時間は大体学校のワークをやっています。そのワークはあまり問題数がないので、すぐ終わってしまうこともしばしばです。そのとき何をやるべきなのか戸惑います。たいてい場合はそのページの文法事項を確認しています。しかし、クラスで授業を受けている生徒たちはきっと先生から手製プリントのようなものをもってきていると思うので（実際、彼女はテスト前にもっていました）、私がプリントのようなものを作って、もっと練習させてあげるか、もしくは、クラスで使用している先生手製のプリントをやらせてあげたほうがいいかと思ったりもしています。

2つ目は先生方との連携です。六角橋中学校では先生方に空いた時間があれば保健室登校の生徒のところに顔を出すという体制が整っています。しかし、ボランティアである私は週1回午前中しかいないので、なかなかお会いすることができず、またお会いできたとしてもお話しすることができません。できればお話しして、どのような指導をしたらいいのかなど相談に乗っていただきたいなと思います。相談する時間がなくとも、せめてクラスの生徒たちが今どのような学習をしているのか知ることのできるシステムがあればいいのと思います。

これからも、学校ボランティアを通してさまざまなことを体験し、将来に役立てて生きたいと思います。



## 学習ボランティアを通して

外国語学部中国語学科4年 石原結

私は今年の五月末から、毎週木曜日の午前中と学校から要請があった時に、横浜市立六角橋中学校の国際学級で学習支援ボランティアをしています。国際学級とは、学校に5人以上の外国籍の生徒が在籍する場合開かれる学級で、現在私は、学習支援を必要とする、日本に来て1年未満の3人の中国籍の生徒と一緒に勉強しています。

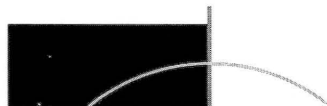
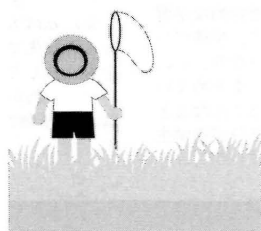
ボランティア活動としては、生徒をクラスから取り出す「取り出し授業」では、担当の先生の補助として日本語を教え、取り出し授業以外では、生徒の学級での授業に入り、生徒の横で分からない所を中国語や簡単な日本語で授業の支援を行っています。時には、担当の先生が生徒と自由に中国語で会話をしていい時間を作ってくれる場合もあります。

まだ始めて間もないですが、生徒と接するにつれて生徒の悩みを知るようになりました。受験を控えた3年生の悩みとしては、進学先として定時制もあるが目標は全日制。しかし外国人特別枠は倍率も高く、今の学力では難しいこと。授業についていけない自分がもどかしく、日本人の生徒と比べてしまうこと。その悩みを聞いて私は、「他の生徒と比べないで、自分が今できないことを少しずつ克服しよう」と言うことしかできませんでした。

また、3人共通の悩みとしては、日本人の友達がないことです。国際学級では担当の先生や私と明るくコミュニケーションを取れる生徒が、教室ではどこか不安気で、少し元気がないのです。

生徒たちの悩みを知るにつれ、学習支援ボランティアとして自分がどこまでできるのだろう、どこまで入り込んでいいのだろうと考えるようになりました。日本人の生徒と国際学級の生徒との仲を近づけて、友達と呼べる人を作ってあげたいが、そこまで自分がしていることなのだろうか、もっと自分ができることがあるのではないだろうかということですが、このようなことを毎回生徒と触れ合う度に思うのですが、まずは自分にできることとして、今後も生徒たちと信頼関係を気づき、生徒の悩みなどを担当の先生に伝えていこうと思います。そして、生徒の抛り所、話し相手になればいいなと思っています。

週に1度ではありますが、毎回生徒に元気をもらい、学習支援ボランティアにやりがいを感じています。今後も担当の先生と生徒とコミュニケーションを図り、貴重な経験を積んでいきたいと思っています。



## 神奈川大学 教職課程指導室

電話：045-481-5661（内線4228）

FAX：045-413-4154

E-mail：educ@kanagawa-u.ac.jp

